

◆ 達成度 A：ほぼ達成（8割以上） B：概ね達成（6割以上） C：変化の兆し（4割以上） D：不十分（4割未満）

目指す学校像（ミッション）	国際社会に貢献する、心豊かな、創造力・発信力をもったリーダーを育成する学校
本年度の重点目標	・重点目標（探究型の学びの推進） ・重点課題（「考える」授業・「考える」日常を再構築し、学力の伸びを保障する） 学力① 人間性(こころ)： その中核(思いやり) 高度の知的な脳力 創造的思考力 学力② 狭義の学力： 世界を説明する知 基礎学力(知識・理解・技能) 学力③ 広義の学力： 創造力 発信力 好奇心 コミュニケーション力

		学 校 自 己 評 価				学校関係者評価（H29・4・） （保護者代表5名・学校代表3名）		
評価項目		年 度 当 初		中間評価（10月）	最 終 評 価（3月）		意見・要望・評価等	
		現 状	具体的な方策	経過・進捗状況	経過・達成状況等	達成度		次年度の課題
1	よりよい授業を目指す授業改善の取り組み <b>授業改善</b>	<p>【PS】児童生徒の学力の伸びを保障するために、児童生徒が「考える授業」を教師が皆意識し創っている。</p> <p>【PS】探究型の授業実践を通して、児童生徒に「こういう力をつけさせる」というめあてや見通しを持って授業計画を立てている教師に差がみられる。</p>	<p>【PS】探究型の授業実践を互いに見合い、自分自身の課題を見つけ、教員間で授業研修を実施する。</p> <p>【PS】学園研修担当者による授業参観を実施し、探究型の授業方法について具体的な課題を見つけ助言する。</p> <p>【PS】学期ごとに自身の探究型の授業実践の達成状況を自己評価し、助言をもとに改善する。</p>	<p>【PS】内部・外部の授業研修や授業公開による保護者からのアンケートをもとに、自分自身の探究型の授業を見つめ直す機会を得ながら、改善・研究を続けている。</p> <p>【S】3本の柱（①2分前行動、②ゴミゼロ、③礼儀）を教師自ら手本となるよう示し、児童生徒と一緒に学んで学びの場を創っている。</p>	<p>【PS】学園研修担当者による授業研修は、計画的に実施することができた。研修後は、振り返りをもとに更に探究型の授業を意識することができた。</p> <p>【S】子どもたちが委員会の動きを自分たちでつくっていくことがこの一年を通して少しずつできるようになってきたことは評価したい。</p>	<p>【P】 B</p> <p>【S】 C</p>	<p>【PS】授業によって取り組みへの差が大きく、子どもたちが安心して授業に参加できていない授業がうまれてしまっているなど、授業改善への全校をあげた取り組みが求められる。</p> <p>【PS】学力を伸ばすためのグループづくりを研究し、一年間じっくり熱心に付き合うことから生まれる信頼関係を築いていきたい。</p>	<p>○学力格差是正のために、学年ごと個々の取り組みの様子(授業の他家庭学習の状況など)を分析し、セカンダリーはもとより、プライマリーからの抜本的な授業及び補習体制の確立が必要ではないかと考える。</p> <p>○ICT への取り組みが進むことを期待したい。ICT、英語、探究の開智らしさを追及することで更に発展を願う。</p>
2	異学年齢のよさを活かしたTeamの運営 <b>Teamの充実</b>	<p>【P】Team、道徳、表現では、異学年の活動を生かした協同的な学びになってきている。</p> <p>【S】発展進化を目指した、セカンダリー生によるプライマリーとの異学年交流がまだ形となっていない。</p>	<p>【P】明確なめあての下、一人ひとりの役割にも自主性を持たせる。</p> <p>【S】自ら学びへの扉（意欲）を開くために、一つのテーマを異学年で討議し合う場を設定する。</p> <p>【S】セカンダリー生のプライマリー学び合い<sup>がくしゅう</sup>への自主的な参加。</p>	<p>【PS】Teamで取り組む行事を経て、更に4年生と8年生が異学年をまとめ、自ら動けるよう指導にあたっている。</p> <p>【S】セカンダリー生とプライマリー生との学びの場が確立できていない。</p>	<p>【P】工夫を持ってTeamの協同学習が実践できている。</p> <p>【S】異学年グループでは、班を編成し、学級の時間の冒頭に必ずテーマを持って、学びへの扉という学習記録をもとに家庭学習について話し合いが持てた。</p>	<p>【P】 A</p> <p>【S】 C</p>	<p>【P】 行事を通して協同的な学びが形となつてはいるが、Team活動の探究的な学びをもっと深化させたい。</p> <p>【S】異学年では、話し合いにおいてテーマを設定するとともに、家庭との連絡の軸として、情報の共有のあり方を模索したい。</p>	<p>○学校行事の運営における異学年交流の良い部分の効果がみられる反面、いじめや盗難など悪い部分の結果も見られるため、全般的に指導方針の徹底が必要である。</p> <p>○人の上に立つて行動、指示する等の経験は子どもたちの自信に繋がっている。</p>
3	子どもたちが主体的に生活する学校生活の実現 <b>生き方の確立</b>	<p>【PS】児童生徒自らが主体的に規律を守り、時間を意識したり、礼儀を重んじたりする行動が身についていない。</p>	<p>【P】新たに学習委員会を立ち上げ、委員会を基軸にいつでも子どもたち自ら学び合いができる環境を作る。</p> <p>【S】児童生徒自身が学校環境を整えるために考えた方策を実践できるように教師集団の意識向上を図る。</p>	<p>【P】学校生活の場において、子どもたち自身が自ら考え、よりよくしていけるよう時間を確保し指導している。</p> <p>【S】児童生徒会を中心に、学校生活における問題点や課題を取り上げ、定期的に集会を実施している。</p>	<p>【P】子どもたちが主体的に活動したり学び合ったりする仕掛けが不十分であった。</p> <p>【S】ネイティブの授業のよりよいあり方について、8学年が主導し、課題の発見、各授業単位での話し合いの場の設定等の模索などができた。</p>	<p>【P】 C</p> <p>【S】 C</p>	<p>【P】各委員長を軸に更によりよく生活していくための活動を子どもたち自らが発見し実行していけるよう導く。</p> <p>【S】授業場面における対話の工夫など、授業改善にまでは十分に結びつかなかったことを反省し、自分たちで補習時間を設定してみるなど、具体的な活動につなげていきたい。</p>	<p>○生徒会、委員会等の担当者となった生徒のリーダーシップが発揮されたことによる多大な成果、成長が見られる。</p> <p>○ルールやマナー、言葉遣いなどの乱れが一部の生徒に見られる。</p> <p>○できる限り子どもたちの考えを尊重している日常があり、上手いいかない事、問題が起こる事も一つ一つの経験が成長に繋がっている。</p>
4	子どもたちが主体的に運営する学校行事の実現 <b>主体的な活動</b>	<p>【PS】児童・生徒が活動のテーマを見失わないよう、教員間のサポート体制を強化している。</p>	<p>【PS】一つの行事に向け、子どもたちの発達段階に応じためあてを設定し、見通しを持って指導にあたるように教師間の連携を強化していく。</p>	<p>【PS】各学年のフィールドワークは、児童生徒の主体的な学びの場となるよう、テーマを明確にして計画的に実践している。</p>	<p>【PS】フィールドワークでは、児童生徒の発達段階に合わせた探究テーマを軸に、事前学習・実践(体験)・事後学習(まとめ)へと繋がる児童生徒の主体的な学びの場となった。</p>	<p>【P】 B</p> <p>【S】 C</p>	<p>【P】探究テーマをより深められるよう協同的な学びの質を高めたい。</p> <p>【S】全員が必ず発表するなどの工夫の結果、発信への意識につながった。これを具体的な探究の質の高まりにつなげていきたい。</p>	<p>○各行事の運営における8年生の意識付け、行動力に成長を感じる。</p> <p>○探究≒思考力の育成という概念を根底に、あらゆる場面において思考力の重要性を意識付けさせる工夫が必要である。</p>

◆ 【P】とは：プライマリー課程（小学校1年生～4年生）

【S】とは：セカンダリー課程（小学校5年生～中学校2年生）